

社会性の育成

平成27年度指定

地域に溶け込むことのできる学校
PTCA（保護者、教師、地域）を目標に！

山口市立上郷小学校PTA

PTA会長 奥村 寿 幸
学 校 長 舛 谷 晃
児 童 数 560名（405世帯）27年5月1日現在
所 在 地 〒754-0032

山口市小郡みらい町二丁目一四番一号

TEL 083-973-3120 FAX 083-973-7519



目指す子ども像

- だれにでも思いやりがもてるやさしい子
- 自分で考え、行動できるかしこい子
- 夢や目標に向かってがんばる強い子

1 学校地域の概要

上郷小学校区は、山口市小郡地区の北東部にあり、校地は「光が丘」の高台に位置し、校舎からは、榎野川や小郡平野を見降ろし、はるかに新幹線を望む閑静な場所に位置している。「岩屋地区」には、わが国の「なぎ」の北限自生地があり国の天然記念物にも指定されている。

校区内には、国道9号線や主要地方道小郡三隅線があり交通量も非常に多く、JR 山口線もあり、踏切を横断する児童もいるので、交通安全教育等を継続する必要がある。

従来のどかな田園地帯であったが、宅地開発が進み、近年新しい住宅地も多く造成され、児童数も増加傾向にある。地域の実態としては、古きよき伝統と進取の機運がほどよく調和し、地域独自の連帯づくりに努力し、新たな伝統が継承されてきている。

また、今年度は開校35周年の節目でもあり、より良い学校、より地域に密着した学校作りを進めていく必要がある。

3 活動テーマについて

地域に溶け込むことのできる学校 PTCA を目標に！

○かみごうふれあいフェスタによる実施

<テーマに選んだ理由>

以前より、かみごうふれあいフェスタの開催はしていましたが、通年行っているものをただ繰り返すだけのマンネリ化が進み、参加人数も年々少なくなっていました。地域とのつながりも数名の講師を呼ぶという形で行っていましたが、地域に密接したものとはかけ離れたものでした。しかも、地域との一体化と言っても一番肝心の P (Parent) の関心や意識が著しく低く、部分的にお願いするというのが精一杯の現状がありました。

しかし、この数年の P への呼びかけ、フェスタの開催方法の改革等を進めた結果、今年度、地域に溶け込んで行ける上郷小学校を目指す第一歩を踏み出せるようになりました。

今年度は、役員、教師、地域（講師のみ）の体制ではなく、近隣の大学、高校、中学校、自治体、それに、役員ではない保護者への参加協力も含め考えていこうという事から、「地域に溶け込むことのできる学校 PTCA を目標に！」をテーマとしました。

<テーマを進めていくにあたって>

今回テーマを進めていくにあたって、まず考えなければいけなかったのが、今まで通りの開催の仕方では目標を達成できないということです。他にも課題を抱えている理事会レベルで考えていくのでは無理があります。

よって、フェスタのみを考えていく特別委員会「かみごうふれあいフェスタ実行委員会」を立ち上げることとしました。

立ち上げるに至って、通常 PTA 業務は会長が行い、副会長の中より一名の実行委員長、それを補佐するものを置き、その管理下で、ブース担当者、ボランティアブースを置くことにより円滑に進めることができるようにしました。

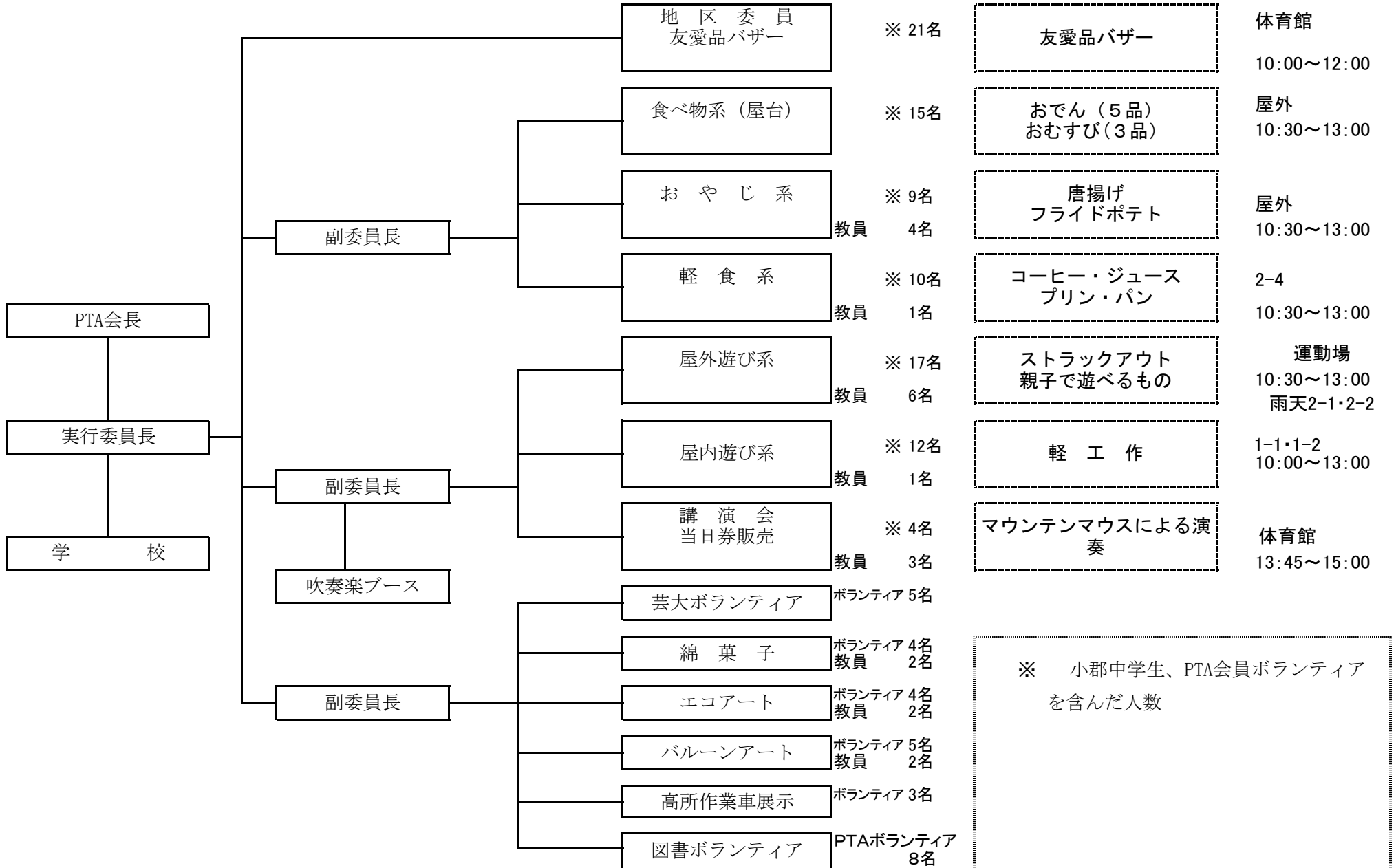
※次ページ かみごうふれあいフェスタ実行委員会組織図参照

<地域にお願いするにあたって>

今年度は、初めての組織の立ち上げ、そして地域の方にブース自体をお願いする。右も左もわからない状態からの立ち上げという事で、地域の方に頼む数がある程度調整し無理のないようなところから始めました。

お願いするに至って、まずは参加依頼書（お願い）の作成をし、校区内の学校、自治体に配布をし、それに加え今まで通り講師に来て頂いていた方にもお願いしました。ただ、昨年度までは講師以外は PTA 役員でブース運営していましたが、今年度はこちらも地域の方々となります。

平成27年度 かみごうふれあいフェスタ実行委員会組織図



※ 小郡中学生、PTA会員ボランティアを含んだ人数

<実行委員会の決行>

8月に実行委員会を立ち上げて、ブースの決定、地域の呼びかけを9月初旬からおこないました。

地域への呼びかけとしまして、

- 1、山口県立山口農業高等学校
- 2、山口市立小郡中学校
- 3、山口学芸大学
- 4、上郷小学校区各自治区
- 5、西日本高速道路（NEXCO 西日本）
- 6、前年度まで講師をお願いしていた方々

の方々に、どのような参加方法でもと、協力を依頼しました。

結果としまして、

- 1、山口県立山口農業高等学校
―自校の農業祭等あり協力が出来ない。
- 2、山口市立小郡中学校
―ブース等での協力は、今からでは無理であるが各ブースの手伝いとして協力する。
- 3、山口学芸大学
―ブースを掲げての協力参加
- 4、上郷小学校区各自治区
―各地区個人単位での協力
- 5、西日本高速道路（NEXCO 西日本）
―工事、保安作業車をできる限り展示し従業員の方も参加協力
- 6、前年度まで講師をお願いしていた方々
―今まで通り協力して頂きました。

今年度は初めてという事もあり、個人で参加して頂いた方々、小郡中学生については実行委員会にブースや役割等の配置は任せていただくようにしました。

役割等を決め、各個人に集合場所、役割、協力をいっていただく時間を記載したものを担当（副実行委員長）が一人一人に配布をしました。

4 計画の実施



地域の方々による綿菓子コーナー

各自治体の有志の方々にブースを持っていただき、子ども達に無料で配りました。



地域の方々による綿菓子コーナー

無料だということもあり、終始大行列が出来ました。



山口学芸大学生によるコーナー

お菓子釣りブースは子ども達にはすごい人気であつという間に完売！



本当にあつという間に終了したので、綿菓子の機械をもう一台だし

終了の時間までお手伝いいただきました。本当に助かりました。



バルーンアートのコーナー！

講師は地域の方から、そして、お手伝いいただいたのも地域の方々。小郡中学生もすごくがんばってくれました。



地域の方々、中学生の皆さんのおかげで、子ども達はすごく満足していました。



エコアートのコーナー。

私達の出るまきはなし！地域の方々、中学生のみなさん。さすがでした！



中学生が10人も手伝いに来てくれました。子どもたちに年の近い、お兄さん、お姉さんと遊ぶのを見ていると、わたし達保護者ではかないません。



上郷小学校にはおやじの会はありません。しかし、地域の方々をお願いするだけでなく役員でなくとも保護者皆が地域にとけこんでいく姿勢が必要だと思っています。



そして、昨年は6人でスタートしたおやじの店も倍以上になりました。子ども達のために地域と一体となった、私達から入り込んでいく事の出来る状態になったような気がします。

5 成果と課題

<成 果>

今年度初めての試みという事もあり、控えめに計画を立て実行しました。中学生に手伝ってもらったブースでは、今までに見ることのできなかつた子ども達の笑顔。そして、地域の方々は、私たち以上に子ども達のことを深く考えてくださっており、もう数年前に計画を立てて行っていたらさらに良いものが出来ていたのではないかと感じました。

地域の方々をお願いをしていく事により、備品等の貸し出しの幅も広がり、そしてなによりもフェスタ後の地域の皆様方とのつながりも深くなったと思います。それは、同時に子どもの安心・安全の観点からもプラスになりますし、挨拶等のコミュニケーション力も深く関係してくるのではとも思いました。

<課題及び反省>

○ 反 省 点

- 1、計画してからの初動が遅れ、地域の方々に一方的なお願いをすることになった。
- 2、1により予算の割り振りが計画と大幅にずれ調整難となった。
- 3、PTA 役員と比べても拘束時間が長くなりすべての方にかかなりの負担をかけた。
- 4、ご協力していただく方々との連絡を学校単位以外はすべて個人的にお願いして回るようになり担当者に負担をかけ、また諸連絡の遅延と不手際が続くことになった。
- 5、地域の方へ、一方的なお願いになってしまったことにより、「地域に溶け込む学校」とはかけ離れたものになった。

○ 課 題

今回は、計画段階からの不手際及び初動の遅れ、及びテーマを実行するに至っての目標の甘さがあり、半分も目標を達成することができませんでした。

これからの課題としまして、今年度の反省を生かし、悪かったことは今年度中に見直し、それについての計画書をつくり、実行する。

更に、地域に溶け込む・・・とするのであるのならば、地域にある諸団体にこちらから溶け込んでいく、及び一方的にお願いをするのではなく一緒に計画を作成する、等、学校を中心とした組織づくりではなく、地域の中にある学校、PTA を目指しての組織づくりを強化していく所存です。

今回の研究テーマは、今、上郷小学校がどの道を選んで進んで行くべきかの指針となったと思います。このテーマは今年度だけではなく達成するまでの永遠のテーマと考え努力していきたいと思ひます。

以上